

雨水浸透阻害行為許可申請様式計算シート（記載例）

（様式－１～様式－６）

許可申請様式計算シート

計算シートを用いて、特定都市河川浸水被害対策法の規定に基づき、雨水浸透阻害行為許可申請書の様式-1～様式-6を作成します。

様式の内容は以下の通りです。

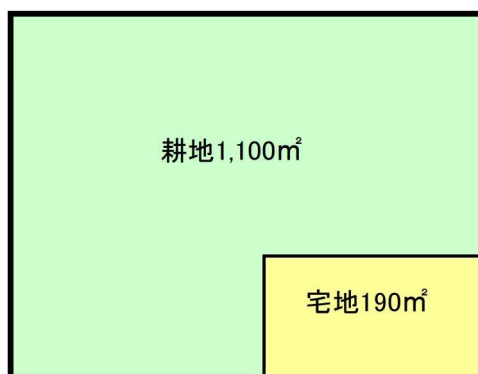
- 様式-1 : 現況土地利用区分面積集計表(行為前)
- 様式-2 : 計画土地利用区分面積集計表(行為後)
- 様式-3 : 行為前後の土地利用集計表
- 様式-4 : 雨水浸透阻害行為前後の平均流出係数
- 様式-5 : 雨水浸透阻害行為前後の雨水流出量の最大値
- 様式-6 : 政令第9条第1項に規定する技術的基準に適合することを証する書類
(様式-1～様式-3:事前相談に必要な書類, 様式-1～様式-6:許可申請に必要な書類)

様式-1～様式-6には、例として以下の条件で数値が入力してあります。
入力が必要な項目を赤字で示しておりますので、該当する箇所に数値を記入してください。
(※数値を入力すると自動計算されます。)

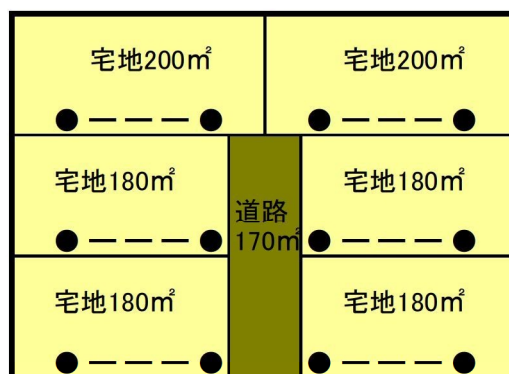
～計算シートの詳しい使用方法については、次ページの「使用方法」をご覧ください～

条件(例示) ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

行為前



行為後



開発面積 : 1,290㎡
行為前 : 耕地 1,100㎡ (流出係数 0.2)
宅地 190㎡ (流出係数 0.9)
行為後 : 宅地 1,120㎡ (流出係数 0.9)
道路 170㎡ (流出係数 0.9)

使用方方法

作業手順

1. 判別法を参考に、様式-1に行為前の現況土地利用別面積を入力します。(赤字該当項目)
2. 判別法を参考に、様式-2に行為後の計画土地利用別面積を入力します。(赤字該当項目)
3. 上記1、2の結果から、行為前後の土地利用集計により、阻害行為対象面積が様式-3に自動算出されます。(入力の必要なし)
算出結果(様式-3:④欄の合計)より、雨水浸透阻害行為許可の対象となるか確認します。
阻害行為対象面積が1,000㎡(0.1ha)を超えていれば雨水浸透阻害行為許可の対象となります。

作業フロー(目的)

阻害行為前の現況土地利用別面積を確認

阻害行為後の計画土地利用別面積を確認

雨水浸透阻害行為許可の対象となるか判定

事前相談

4. 様式-4に雨水浸透阻害行為前後の平均流出係数が自動算出されます。(入力の必要なし)
行為区域位置の住所を入力してください。

2

5. 様式-5に雨水浸透阻害行為前後の最大雨水流出量が自動算出されます。(入力の必要なし)

6. 『調整池容量計算システム』を使用して雨水浸透貯留施設の能力を算出し、必要対策量を上回っているか確認します。(詳しくは様式-6作成要領をご覧ください。)
『調整池容量計算システム』の算出結果を様式-6に記入します。

許可申請

阻害行為前後の平均流出係数を算出

阻害行為前後の最大雨水流出量を算出

流出抑制施設の能力が必要対策量以上であるか判定

考え方

●特定都市河川流域において、1,000㎡以上の雨水浸透阻害行為を行う場合は、許可を受けなければなりません。

●雨水浸透阻害行為とは、雨水の流出量を現状より悪化させる行為（行為前後で雨水流出量が増加する行為）をいいます。行為後においても、行為前より雨水流出量を増加させないように抑制するという「現状非悪化」が基本的な考え方です。

●現況及び計画の土地利用形態は、図面・写真により、実際の利用形態から判断します。

土地利用の判別

	土地利用の形態	定義	留意事項
宅 地 等 に 該 当 す る 土 地	① 宅地	宅地は、次に掲げる建物(工作物を含む)の用に供するための土地をいう。 (A)現況において、建物の用に供している土地 (B)過去において、建物の用に供している土地	宅地は、建物の屋根面積のほか、庭等も含めた一団をもって宅地とする。
	② 池沼	常時、又は一時的に水面を有する池沼をいう。	池沼の範囲は、池沼を形成する連続した斜面、壁面(直接流出となるエリア)の頂上までの範囲及び貯留に供する土堤等がある場合は、それら施設敷地一体を含めた範囲とする。
	③ 水路	常時、又は一時的に水面を有する水路をいう。	水路の範囲は、水路を形成する連続した斜面、壁面(直接流出となるエリア)の頂上までの範囲とする。
	④ ため池	常時、又は一時的に水面を有するため池をいう。	ため池の範囲は、ため池を形成する連続した斜面、壁面(直接流出となるエリア)の頂上までの範囲及び貯留に供する土堤等がある場合はそれら施設敷地一体を含めた範囲とする。
	⑤⑥ 道路(法面を有しないものを⑤、法面を有するものを⑥とする)	一般の交通の用に供する道路をいう。道路法(昭和27年法律第180号)に規定する道路かどうかは問わない。 未舗装でも、一般の交通の用に供していれば道路とする。	道路の範囲は、路肩から路肩までの範囲のほか、歩道、植樹帯、道路付帯施設が含まれる。 法面は区分し整理する。
	⑦⑧ 鉄道道路(法面を有しないものを⑦、法面を有するものを⑧とする)	鉄道道路とは鉄道の敷地のうち、線路の敷地の範囲(高架の鉄道を含む)をいう。 操車場は鉄道道路に含まれない。	法面は区分し整理する。
	⑨⑩ 飛行場(法面を有しないものを⑨、法面を有するものを⑩とする)	飛行場は、空港・ヘリポート等(飛行場の外に設置された航空保安施設の敷地を含む)をいう。	法面は区分し整理する。

土地利用の判別

	土地利用の形態	定義	留意事項
舗装された土地	⑪ 不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く)	コンクリート等の不浸透性の材料で覆われた土地(法面は含まず)をいう。	
	⑫ 不浸透性材料により覆われた法面	コンクリート等の不浸透性の材料で覆われた法面をいう。	
その他お土地からの流出為雨に係る水量を増加させる	⑬ ゴルフ場(雨水を排水するための排水施設を伴うものに限る)	ゴルフ場の敷地すべてではなく、当該排水施設の集水範囲の対象となる区域の土地をいう。	「雨水を排水するための排水施設」がない場合は、この区分の対象とならない。敷地のうち、排水施設に集水される範囲が対象となる。
	⑭ 運動場、又はその他これに類する施設(雨水を排水するための排水施設を伴うものに限る)	運動場の敷地すべてではなく、排水施設の集水範囲の対象となる区域の土地をいう。	「雨水を排水するための排水施設」がない場合は、この区分の対象とならない。敷地のうち、排水施設に集水される範囲が対象となる。
	⑮ ローラー、又はその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	建築物が建築できる程度、又は通常車両等が容易に走行できる程度に締め固められた土地(排水施設が設置されたゴルフ場、運動場等を除く)をいう。 施工段階で締め固められた土地であっても、耕起が行われることによって通常車両等が容易に走行できる程度までは締め固められていない状態のものは、締め固められた土地に該当しない。	
上記に掲げる土地以外の土地	⑯ 山地	平均勾配が10%以上の土地(山地、林地、原野)をいう。	平均勾配の設定は、エリア内の地形図で一つの斜面を構成するエリアを設定し、次にその斜面の最大標高と最小標高を直線で結ぶ平均勾配を算出し、判断する。 他の区分(①～⑮, ⑰, ⑱)以外の土地で、平均勾配10%以上の土地をいう。
	⑰ 人工的に造成された植生に覆われた法面	人工的に造成され、植生に覆われた法面をいう。	
	⑱ 林地、耕地、原野その他ローラー又はこれに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	平均勾配が10%未満で、一体的に林、又は草地等を形成している土地(山地、林地、原野)をいう。	平均勾配の設定は、エリア内の地形図で一つの斜面を構成するエリアを設定し、次にその斜面の最大標高と最小標高を直線で結ぶ平均勾配を算出し、判断する。 他の区分(①～⑮, ⑰, ⑱)以外の土地で、平均勾配10%未満の土地をいう。
		耕作の目的に供される土地(水田(灌漑中であるか否かを問わない)を含む)をいう。	

現況土地利用区分面積集計表（行為前）

様式一1

エリア No	宅地等									舗装された土地			その他土地からの流出雨水を増加させるおそれのある行為に係る土地			左記以外の土地		
	宅地	池沼	水路	ため池	道路 (法有しもないに限る。)	道路 (法有するものに限る。)	鉄道線 (法有しもないに限る。)	鉄道線 (法有するものに限る。)	飛行場 (法有しもないに限る。)	飛行場 (法有するものに限る。)	コンクリート等の不透水性材料により覆われた地面(法除く)	コンクリート等の不透水性材料により覆われた地面	ゴルフ場(雨水を排水するための排水設備を伴うもの)	運動場その他(雨水除く排水設備を伴うものに限る)	ローラースケート場その他(機械を用いた土壌を固めた土地)	山地	人工的に造成された植生を覆った地面	林地、 耕地、 原野その他 ローラースケート場 はこれに類する機械を用いていない土地
1	0.0300																	
2																		
3																		0.0850
4																		0.0850
5																		0.0900
小計1	0.0300									0.0100								0.2600
小計2										0.0400								0.2600
合計										0.3000								

(単位：ha)

計画土地利用区分面積集計表（行為後）

エリア No	宅地等								舗装された土地			その他土地からの流出雨水を増加させるおそれのある行為に係る土地			左記以外の土地			
	宅地	池沼	水路	ため池	道路 (法有しもないに限る。)	道路 (法有するものに限る。)	鉄道線 (法有しもないに限る。)	鉄道線 (法有するものに限る。)	飛行場 (法有しもないに限る。)	飛行場 (法有するものに限る。)	コンクリート等の不透水性材料により覆われた土地(法除く)	コンクリート等の不透水性材料により覆われた面積	ゴルフ場(雨水を排除するための排水設備を伴うもの)	運動場その他(雨水を排除するための排水設備を伴うものに限る)	ロータリーその他(建築機械を用いた固められた土地)	山地	人工的に造成された植生を覆った面積	林地, 耕地, 原野その他ロータリーはこれに類する機械を用いない土地
1	0.0300																	
2					0.0100													
3																		
4										0.0850								
5	0.0900																	
小計1	0.1200				0.0100													
小計2										0.0850								
合計										0.1300								
0.3000																		

(単位: ha)

行為前後の土地利用集計表

様式-3

土地利用区分	①欄 様式-1 現況土地利用 面積 (ha) ① 様式-1 小計1の欄	②欄 様式-2 計画土地利用 面積 (ha) ② 様式-2 小計1の欄	③欄 面積差 (ha) ②-①	④欄		参考 流出係数	備考
				雨水浸透阻害行為の当該面積	③欄が (+) の場合、原則当該 該当の場合面積 (ha) を記入		
宅地等	宅地	0.0300	0.0900	0.0900	0.0900	0.9	
	池					1	
	水路					1	
	ため池					1	
	道路 (法面を有しないものに限る。)	0.0100	0.0100			0.9	宅地等の区分 同士の増 減は対象と しない。
	道路 (法面を有するものに限る。)					加重平均	
	鉄道線路 (法面を有しないものに限る。)					0.9	
	鉄道線路 (法面を有するものに限る。)					加重平均	
	飛行場 (法面を有しないものに限る。)					0.9	
	飛行場 (法面を有するものに限る。)					加重平均	
小計	0.0400	0.1300	0.0900	0.0900			
舗装された 土地	コンクリート等の不透透性の材料により覆われた土地 (法面 を除く)		0.0850	0.0850	0.0850	0.95	
	コンクリート等の不透透性の材料により覆われた法面				0.0850	1	
その他土地 からの流出 雨量を増 加させるお それのある 行為に係る 土地	ゴルフ場 (雨水を排除するための排水施設を伴うもの)					0.5	
	運動場その他これに類する施設 (雨水を排除するための排水 施設を伴うものに限る。)	0.0850	0.0850	0.0850	0.0850	0.8	
上記に掲げ る土地以外 の土地	ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められ た土地					0.5	
	小計	0.0850	0.0850	0.0850	0.0850		
	山地					0.3	
	人工的に造成された植生に覆われた法面					0.4	
合計	林地、耕地、原野その他ローラー又はこれに類する建設機械 を用いていない土地	0.2600	-0.2600	-0.2600		0.2	
	小計	0.2600	-0.2600	-0.2600			
合計	0.3000	0.3000			0.2600		

(単位: ha)

(一)の欄は記載不要

④欄の合計 ha

0.1ha (1,000㎡) 以上の場合、申請の対象

雨水浸透阻害行為前後の平均流出係数

行為区域位置 住所：〇〇市〇〇区〇〇町
 行為面積 0.2600 h a
 行為前後の土地利用区分

区分		土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)	
宅地等に該当する土地	第1号関連	宅地	0.90	0.0300	0.1200	
		池沼	1.00			
		水路	1.00			
		ため池	1.00			
		道路(法面を有しないもの)	0.90	0.0100	0.0100	
		道路(法面を有するもの)				
		鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90			
		鉄道線路(法面を有するもの)				
		飛行場(法面を有しないもの)	0.90			
		飛行場(法面を有するもの)				
宅地等以外の土地	関第2連号	不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		0.0850	
		不浸透性材料により覆われた法面	1.00			
	第3号関連	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.50			
		運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.80		0.0850	
		ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	0.50			
	土地以外の土	第3号ら	山地	0.30		
			人工的に造成され植生に覆われた法面	0.40		
		林地, 耕地, 原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	0.20	0.2600		
その他						
面積計				0.3000	0.3000	
平均流出係数				0.293	0.886	

※ 様式-1, -2, 図面-3, -4, -5, -6参照

雨水浸透阻害行為前後の最大雨水流出量

合理式 $Q = 1/360 \cdot f \cdot r \cdot A$

Q: 流量 (m^3/s)

f: 流出係数 (様式-4より)

r: 最大降雨強度(10分間) (mm/h) (基準降雨より)

A: 集水面積 (ha) (様式-4より)

① 行為前の最大雨水流出量

$$Q = 1/360 \times 0.293 \times 116.03 \times 0.3000 = 0.02833 \text{ m}^3/\text{s}$$

② 行為後の最大雨水流出量

$$Q = 1/360 \times 0.886 \times 116.03 \times 0.3000 = 0.08567 \text{ m}^3/\text{s}$$

よって,

$$0.08567 \text{ m}^3/\text{s} - 0.02833 \text{ m}^3/\text{s} = 0.05734 \text{ m}^3/\text{s}$$

0.05734 m^3/s 分をカットする対策が必要。

(様式－6作成要領)

様式－6では、雨水貯留浸透施設の対策規模を設定し、行為後のピーク流量が行為前の流出雨水量の最大値を超えないか確認することを目的としています。

「調整池容量システム(エクセル)」を用いて様式－6を作成します。
「ユーザーマニュアル」を参考にしながら、以下のシートを作成してください。
(「調整池容量システム(エクセル)」、「ユーザーマニュアル」は、宮城県河川課ページ掲載のものを使用してください。)

～「調整池容量システム(エクセル)」使用方法～

1. ・**流出係数算出**⇒様式－4を参照して記入してください。
2. ・**01流出計算(Q-Tグラフ)**⇒「計算実行」ボタンを押下してください。
(様式－5に対応しています。行為前後の流出量を確認してください。)
3. ・**浸透施設能力**⇒設置する浸透施設の比浸透量、飽和透水係数、設置数量、影響係数、体積、空隙率を入力してください。
(各浸透施設諸元の算出には次ページの「浸透施設諸元算出表」を使用し、算出された諸元(青・緑ハッチング項目)を浸透施設能力シートに入力してください。)
4. ・**02流出計算(QT-Sグラフ)**⇒流出計算条件を選択し、「計算実行/再設定」ボタンを押下してください。
5. ・**04－①調整計算(自然調節方式)**⇒調整池を設置する場合は諸元を入力し、「計算実行」ボタンを押下してください。
6. ・計算結果の総合評価がO.Kとなっているか確認します。
(N.Gの場合はO.Kになるまで、繰り返し諸元を調整します。)
7. ・総合評価がO.Kであれば、「【様式】許可申請図書」の保存場所を入力し、「許可申請図書の作成」ボタンを押下して計算結果を出力します。
(「【様式】許可申請図書」は「調整池容量計算システム」をダウンロードすると、同時に保存されます。)
8. ・出力された許可申請図書(エクセルシート)から、流出抑制施設の諸元および調節計算結果を様式－6に入力します。
(※様式－6は正方形ます、浸透トレンチおよび調整池を併用した場合を赤字で例示しております。)

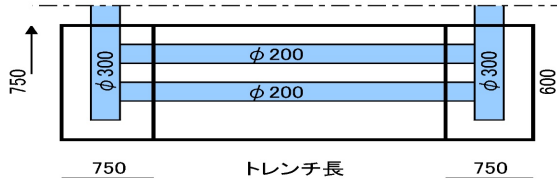
【宮城県南部 降雨強度】

時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)
0	0-10	2.99	6	0-10	4.86	12	0-10	64.16	18	0-10	4.72
	10-20	3.02		10-20	4.96		10-20	38.39		10-20	4.63
	20-30	3.05		20-30	5.06		20-30	28.54		20-30	4.55
	30-40	3.08		30-40	5.17		30-40	23.14		30-40	4.47
	40-50	3.11		40-50	5.28		40-50	19.67		40-50	4.40
	50-60	3.14		50-60	5.40		50-60	17.23		50-60	4.32
1	0-10	3.18	7	0-10	5.53	13	0-10	15.41	19	0-10	4.25
	10-20	3.21		10-20	5.67		10-20	14.00		10-20	4.19
	20-30	3.25		20-30	5.81		20-30	12.86		20-30	4.12
	30-40	3.28		30-40	5.96		30-40	11.92		30-40	4.06
	40-50	3.32		40-50	6.13		40-50	11.13		40-50	4.00
	50-60	3.36		50-60	6.30		50-60	10.46		50-60	3.94
2	0-10	3.40	8	0-10	6.49	14	0-10	9.88	20	0-10	3.88
	10-20	3.44		10-20	6.69		10-20	9.37		10-20	3.83
	20-30	3.48		20-30	6.91		20-30	8.92		20-30	3.78
	30-40	3.52		30-40	7.15		30-40	8.52		30-40	3.73
	40-50	3.56		40-50	7.40		40-50	8.16		40-50	3.68
	50-60	3.61		50-60	7.69		50-60	7.84		50-60	3.63
3	0-10	3.65	9	0-10	7.99	15	0-10	7.54	21	0-10	3.59
	10-20	3.70		10-20	8.34		10-20	7.27		10-20	3.54
	20-30	3.75		20-30	8.71		20-30	7.03		20-30	3.50
	30-40	3.80		30-40	9.14		30-40	6.80		30-40	3.46
	40-50	3.86		40-50	9.62		40-50	6.59		40-50	3.42
	50-60	3.91		50-60	10.16		50-60	6.39		50-60	3.38
4	0-10	3.97	10	0-10	10.78	16	0-10	6.21	22	0-10	3.34
	10-20	4.03		10-20	11.51		10-20	6.04		10-20	3.30
	20-30	4.09		20-30	12.37		20-30	5.89		20-30	3.26
	30-40	4.15		30-40	13.40		30-40	5.74		30-40	3.23
	40-50	4.22		40-50	14.66		40-50	5.60		40-50	3.19
	50-60	4.29		50-60	16.26		50-60	5.47		50-60	3.16
5	0-10	4.36	11	0-10	18.36	17	0-10	5.34	23	0-10	3.13
	10-20	4.43		10-20	21.24		10-20	5.23		10-20	3.10
	20-30	4.51		20-30	25.50		20-30	5.11		20-30	3.07
	30-40	4.59		30-40	32.60		30-40	5.01		30-40	3.04
	40-50	4.68		40-50	47.42		40-50	4.91		40-50	3.01
	50-60	4.77		50-60	116.03		50-60	4.81		50-60	2.98

浸透施設諸元算出表

使用する浸透施設の諸元をオレンジ色ハッチング箇所に入力してください。
必要な諸元(青・緑ハッチング項目)が自動算出されます。

例として、下図の正方形ますおよび浸透トレンチを使用した場合の数値を赤字で示しています。



正方形ます W750×W750×H750 12個
塩ビ管ます φ300×H600
浸透トレンチ H750×W750
トレンチ長 11.7×6=70.2m
塩ビ管 φ200ダブル

施設	円筒ます	正方形ます	矩形ます	浸透トレンチ・浸透側溝	透水性舗装・透水性平板
浸透面	側面および底面	側面および底面	側面および底面	側面および底面	底面
模式図	 H: 設計水頭(m) D: 施設直径(m)			 H: 設計水頭(m) W: 施設幅(m)	 H: 設計水頭(m)
施設規模の適応範囲	H≤1.5m, 0.2≤D≤10m	H≤1.5m, W≤80m	H≤1.5m, L≤200m, W≤4m	H≤1.5m, W≤1.5m	H≤1.5m
設計水頭H(m)		0.75		0.75	
施設直径D(m), 施設幅W(m)		0.75		0.75	
施設延長L(m)					
係数	a		1.075		3.093
	b		6.69775		1.682
	c		1.8605		
比浸透量(m ²)		7.4885		4.00175	
飽和透水係数(m/hr)					現地浸透試験の結果を入力してください
設置数量(個), (m), (m ²)			12		70.2
影響係数(1)	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
影響係数(2)	0.9	0.9	0.9	0.9	0.5
管の外径(m)	0.318	0.318		0.216	
管の内径(m)	0.3	0.3		0.2	
管の高さ(m)	0.8	0.6			
トレンチの段数				2	
空隙部の体積(m ³)	0	4.490657252	0	34.34274745	0
空隙率(%)		35		35	下表の材料別の空隙率を参照し、該当する材料の設計値を入力してください
管内の体積(m ³)	0	0.50893801	0	4.410796086	空隙貯留量の条件設定【その他】に入力してください
空隙率(%)	100	100	100	100	

●材料別の空隙率

材料	設計値	文献による参考値
単粒度砕石(3・4・5号)	35%	30~40% ^{※1}
クラッシャーラン	12%	骨材間隙率6~18% ^{※2}
粒度調整砕石	9%	骨材間隙率3~15% ^{※2}
透水性アスファルト混合物	15%	10~20%以上 ^{※3}
透水性瀝青安定処理路盤		
透水性コンクリート	20%	連続空隙率20% ^{※4}
プラスチック製貯留材	使用する製品のカタログ値を採用	60~95% ^{※4} 空隙率は製品により異なり、また98%の空隙率を有するものもある

※1: 雨水浸透施設技術指針[案] 構造・施工・維持管理編 社団法人雨水貯留浸透技術協会

※2: 舗装設計施工指針 社団法人日本道路協会

※3: 雨水流出抑制施設(規定及び解説)住宅・都市整備公団

※4: 技術評価認定書 社団法人雨水貯留浸透技術協会

政令第9条第1項に規定する技術的基準に適合することを証する書類

流出抑制施設諸元

調整池諸元

放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の雨諸元を記載)

		下段	上段(2段オリフィスの場合)
放流口形状	形状	円形	
	直径	0.110	
	高さ	-	
	幅	-	
	管底位置(池底から)	0.000	

調整池諸元

ポンプ諸元(ポンプ排水を用いた場合)

H	V	H	Q
0.000	0.00		
1.000	100.00		

浸透施設諸元

浸透能力 0.000834 m³/s

【浸透マス】	単位設計浸透能(m ³ /hr/個)		設置数量(個)	影響係数		
	比浸透量(m ³)	飽和透水係数(m/hr)		(1)内容(1)	(2)内容(2)	(3)内容(3)
1	7.49	0.01	12	0.90	0.90	1.00
2				1.00	1.00	1.00
3				1.00	1.00	1.00
4				1.00	1.00	1.00
5				1.00	1.00	1.00
6				1.00	1.00	1.00
7				1.00	1.00	1.00
8				1.00	1.00	1.00
9				1.00	1.00	1.00
10				1.00	1.00	1.00

【浸透トレンチ】	単位設計浸透能(m ³ /hr/m)		設置数量(m)	影響係数		
	比浸透量(m ³)	飽和透水係数(m/hr)		(1)内容(1)	(2)内容(2)	(3)内容(3)
1	4.00	0.01	70.2	0.90	0.90	1.00
2				1.00	1.00	1.00
3				1.00	1.00	1.00
4				1.00	1.00	1.00
5				1.00	1.00	1.00
6				1.00	1.00	1.00
7				1.00	1.00	1.00
8				1.00	1.00	1.00
9				1.00	1.00	1.00
10				1.00	1.00	1.00

【透水性舗装】	単位設計浸透能(m ³ /hr/m ²)		設置数量(m ²)	影響係数		
	比浸透量(m ³)	飽和透水係数(m/hr)		(1)内容(1)	(2)内容(2)	(3)内容(3)
1				1.00	1.00	1.00
2				1.00	1.00	1.00
3				1.00	1.00	1.00
4				1.00	1.00	1.00
5				1.00	1.00	1.00
6				1.00	1.00	1.00
7				1.00	1.00	1.00
8				1.00	1.00	1.00
9				1.00	1.00	1.00
10				1.00	1.00	1.00

【その他】	単位設計浸透能(m ³ /hr/単位)		設置数量(単位)	影響係数		
	比浸透量(m ³)	飽和透水係数(m/hr)		(1)内容(1)	(2)内容(2)	(3)内容(3)
1				1.00	1.00	1.00
2				1.00	1.00	1.00
3				1.00	1.00	1.00
4				1.00	1.00	1.00
5				1.00	1.00	1.00
6				1.00	1.00	1.00
7				1.00	1.00	1.00
8				1.00	1.00	1.00
9				1.00	1.00	1.00
10				1.00	1.00	1.00

空疎貯留量諸元

空疎貯留量 18.510 m³

【浸透マス】	体積(m ³)	空疎率(%)
1	4.49	35.00
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【浸透トレンチ】	体積(m ³)	空疎率(%)
1	34.34	35.00
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【透水性舗装】	体積(m ³)	空疎率(%)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【その他】	体積(m ³)	空疎率(%)
1	0.51	100.00
2	4.41	100.00
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

調節計算結果

最大流入量(行為後) 0.084836 m³/s
 最大放流量 0.024301 m³/s < 許容放流量 0.028330 m³/s

